

2024.7.20

談話場面における 移動動詞“来”と“去”の選択基準

大東文化大学 外国語学研究科 博士課程前期課程
中国言語文化学専攻 陶源

目次

0. はじめに
1. 先行研究
2. 考察基準
3. 移動主体が話し手のとき
4. 移動主体が聞き手のとき
5. 移動主体が第三者のとき
6. まとめ

0. はじめに

- 話し手がどこかに「行く(“去”)」移動に対し“来”を用いる言語現象：
(1) “你先去吧，我马上就**来**。” (輿水 1980)
 - 話し手以外の誰かがどこかに「行く(“去”)」移動に対し“来”を用いる現象：
(2) (話し手は聞き手と別の場所にいる)
“明天山田 {**来** / **去**} 找你吗？” (下地 1997)
- ? (1)の移動“去”を“来”で表す ▶ 理由・基準
- ? (2)では“来”“去”どちらを使用しても自然 ▶ 発話に含まれる意図

1. 先行研究

- “来”“去”の使用に対する中澤（2002）（2008）の指摘

中澤（2002）：

- **聞き手の位置を到達地とした“来”は動作主に拘らず一律に許容されない**
話し手のみが“来”の到達地になり得る

(3) 台风已经刮到你那儿 { *来 / 去 } 了吗？

- **指示時（移動動作が起きる（起きた）時点のこと）だけの話し手の位置も**
“来”の到達点になりにくい（この場合“去”が選択されることが多い）

(4) 下个月我在北海道工作，田中也 { *来 / 去 } 。

• しかし、以下の場合には“去”と共に“来”も許容されるとしている。

(5) 我在车站等着，三点你 { 来 / 去 } ，田中也要 { 来 / 去 } 。

(6) 明天，我没事儿，两点左右到我研究室 { 来 / 去 } 吧。

→ 张芄蕾 (2009) はこのような“来”の使用を「視点の移行」とし、視点の移行が起こりうる原因は以下のように説明：

(5) 指示時に話し手が「到達点にいる」ことが言語的に明示されている

(6) 到達点が恒常的な位置 (“我研究室”) であるため、心理的距離が消える

中澤（2008）：

- “来”の使用条件

…発話時または指示時に話し手が目的地にいる場合に限る。

- 呼ばれて「今、行く」という意味で“我马上就来”と返事する言語現象は、聞き手を目的地とする移動を“来”と表しているため、この法則に当てはまらないが、このような“来”の使用には拡張性がなく、予測できない慣用的な表現だとした。

- (3)では、話し手が聞き手を対立的に捉える場所指示詞“那儿”があり、“来”の不適格性は“**你那儿**”によるものと十分に考えられる（下地 1997）。

(3)台风已经刮到**你那儿** { *来 / 去 } 了吗？

- (4)では、“来”は指示時の到達点になりにくいとされているが、「**田中も一緒に来る（移動する）**」という意味で使用する分には何ら不自然に感じることはない。

(4)下个月我在北海道工作，田中**也来**。

- 「行く」移動を“来”で表す現象には「慣用表現」だけでなく、何らかの規則性があるように思われる。

“来”と“去”の使用には、地域や個人の言語習慣による差異も含まれるが、言語事実がこうして存在する以上、“来”及び“去”を使用する理由について、またその**選択基準**についてより統括的な研究を行う余地があると考えられる。

2. 考察基準

- 会話場面に絞り、移動を表す“来”“去”の選択基準について整理していく。
- “来”と“去”…「直示移動動詞」（意味が話す**場面**に依存する）
 - “来”と“去”の選択について分析していくには、それが使われる**場面を細かく設定**しなければならない。
- ◆ 移動に関わる要素として、誰が移動するのか、発話時と指示時における言語行為参与者の位置などが考えられる。本発表では主に以下三つに注目し、例文を分類・整理していく。

- ① 移動主体：話し手／聞き手／（話し手と聞き手以外の）第三者
- ② 〈発話時〉話し手または聞き手が到達点にいるか否か
- ③ 〈指示時〉話し手または聞き手が到達点にいるか否か

3. 移動主体が話し手のとき

移動主体が話し手である場合、以下2種類の状況が考えられる。

- (i) 「発話時にも指示時にも到達点にいる」
- (ii) 「発話時には到達点にいないが、指示時には到達点にいる」
(過去／未来の動作)

3. 移動主体が話し手するとき

(i) 「発話時にも指示時にも到達点にいる」

(i) 移動主体：話し手

〈発話時〉話し手が到達点にいる

〈指示時〉話し手が到達点にいる

→このとき、他の要素は関係なく、“来”が使用される。

(7)我是六一年来的。

(8)赵院长，我来找你们，倒不是非想找个什么专家教授。我对你们医院信得过，或者说有一种特殊的感情。

(9)我在这儿也住了不少日子了。我寻思，还是先回去吧，赶明儿再来……

(人到中年)

3. 移動主体が話し手するとき

(ii) 「発話時には到達点にいないが、指示時には到達点にいる」

(ii) 移動主体：話し手

〈発話時〉話し手が到達点にいない

〈指示時〉話し手が到達点にいる

→このとき、**話し手の状況が固定される**のに対し、聞き手は「発話時または指示時に到達点にいるか」によって、さらに**4つのパターン**に分けられる。

	話し手	聞き手			
発話時に到達点にいるか	-	+	+	-	-
指示時に到達点にいるか	+	+	-	+	-
パターン		a	b	c	d

表 1

a の状況

話し手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

聞き手：発話時に到達点にいる
指示時に到達点にいる

a. 「聞き手を到達点とした移動」

(10) (“快来呀！”) “就**来**，就**来**。” (輿水 1980)

(11) 【電話で】 (“你什么时候来？”) “马上就**来**。” (陆俭明 2007)

(12) 【電話で】 好的，我就**来**。(人到中年)

(13) 【電話で】 刚才一个重要客户要我去一趟，事关重大，不能**来**了。

(请吃饭)

➔ 動作としては“去”だが、“**来**”を使用する場面が多く見受けられる。

➤ 聞き手の位置は“来”の到達地として十分条件とはならない(中澤 2002)が、**「聞き手を到達点とした移動」に“来”が使用されることは十分にあり得る。**

(10)' (“快来呀！”) “就 { 来 / ??去 } ，就 { 来 / ??去 } 。”

(11)' (“你什么时候来？”) “马上就 { 来 / ??去 } 。”

(13)' “刚才一个重要客户要我去一趟，事关重大，不能 { 来 / 去 } 了。”

- (13)の場面…上司が部下に対し電話で、約束していた食事会に参加できないという意味で“不能来了”と発話している。(=移動は行われない)

→ここでの“来”の使用について注目

「移動が行われない」ことを伝えるときにも“来”が使用できる



聞き手を到達点とした「移動」に“来”が使用できるというよりも、

聞き手が到達点にいる / 聞き手 = 到達点 ⇒ “来”を使用できる条件

a の状況… 〈発話時〉 話し手と聞き手は異なる位置にいる

一般的に、両者が同じ場所（少なくとも声が聞こえる距離(10)）にいないければ会話は成立しないはず。

これ以外に、電話やメッセージなどの通話手段を利用して会話が成立している状況（(11)～(13)）についても考えなければならない。

- 先行研究では、とりわけ電話やメッセージでの会話を取り上げることはしていないようだが、実際に聞き手に近づく移動に対し“来”を用いる言語現象は電話などで頻繁に発生している。
- 今までの会話は現場性に制限されるのに対し、通話手段が発達している今、そこで発生している会話にも注目すべきだと考える。

b の状況

話し手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

聞き手：発話時に到達点にいる
指示時に到達点にいない

b. 【以下すべて電話での会話を想定した作例】

(14) (聞き手 A は現在北海道にいるが、来月北海道にいるかどうか分からない)

話し手 B : “我下个月也要 {??来 / 去} 北海道。”

(15) (聞き手 A は現在研究室にいて、昨日小李が来なかったかと話し手 B に聞く)

話し手 B : “我昨天 {??来 / 去} 研究室的时候看到小李了。”

(16) (聞き手 A は現在図書館にいるが、物を片付けて出ようとしている)

話し手 B : “我想 {?来 / 去} (图书馆) 借书。”

a … 「聞き手 = 到達点」

b … 「**聞き手 ≠ 到達点**」

→ 〈指示時〉聞き手は到達点にいない / いるかどうか分からない

→ “来”の許容度が低く、“去”が使用される。

- (16)“来”の許容度 > (14)(15)

→話し手が到達点につくより先に、聞き手が離れているかどうか不明

□話し手が「聞き手が到達点（図書館）を離れること」を知らない場合

□話し手が聞き手が離れるより先に到達点（図書館）につく場合

→**状況 a（聞き手＝到達点）** のつもりで“来”を使用しても自然

(16)'（聞き手 A は図書館から出ようとしている）

（話し手 B は「今」聞き手が図書館にいることしか知らない）

話し手 B：“我想 {来 / 去}（图书馆）借书。”

c の状況

話し手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

聞き手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

c. 「聞き手を指示時の到達点とした移動」

(17) (“明儿星期天，请你到我家坐坐。”) “我一定来。” (輿水 1980)

(18)你先去吧，我马上就来。(輿水 1980)

(19)坐久了，有点麻，一会儿就好了。晚上我去看你。(人到中年)

(20)【電話で】我明天早上八点去车站接你。



(17)' (“明儿星期天，请你到我家坐坐。”) “我一定 {来 / ??去} 。”

(18)' 你先去吧，我马上就 {来 / ??去} 。

(19)' 坐久了，有点麻，一会儿就好了。晚上我 {??来 / 去} 看你。

(20)' 【電話で】我明天早上八点 {??来 / 去} 车站接你。

? 「聞き手を指示時の到達点とした移動」における“来”と“去”の許容度に差が表れる原因

□移動を“来”で表す場合

…何もつくことなく、そのまま文が完結していることが多い

(17) (“明儿星期天，请你到我家坐坐。”) “我一定来。”

(18)你先去吧，我马上就来。

➤“来”の指す「移動目的／到達点」は明確

□移動を“去”で表す場合

…後ろに到達点／移動目的が付随していることが多い

(19)坐久了，有点麻，一会儿就好了。晚上我去看你。

(20)【電話で】我明天早上八点去车站接你。

➤“去”の指す「移動目的／到達点」は聞き手にとって新情報

d の状況

話し手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

聞き手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいない

d.

(21) (聞き手は話し手と一緒にいる)

我在这儿也住了不少日子了。我寻思，还是先回**去**吧，赶明儿再来……

(人到中年)

(22) (聞き手は話し手と一緒にいる) 我最近身体不大舒服，昨天**去**了一趟医院。

(23) (聞き手は中国にいる・話し手は日本にいる) 我明年打算**去**加拿大留学。

- 〈発話時・指示時〉聞き手が到達点にいない → 聞き手は移動と関係ない
+ 〈発話時〉話し手が到達点にいない
→ 移動を“**来**”で表すのは**不可能**であり、例外なく“**去**”が使用される。

4. 移動主体が聞き手のとき

移動主体が聞き手である場合：

「発話時には到達点にいないが、指示時には到達点にいる」
(過去／未来の動作)

移動主体：聞き手

〈発話時〉聞き手が到達点にいない

〈指示時〉聞き手が到達点にいる

→このとき、**聞き手の状況が固定される**のに対し、話し手は「発話時または指示時に到達点にいるか」によって、さらに**4つのパターン**に分けられる。

	話し手				聞き手
発話時に到達点にいるか	+	+	-	-	-
指示時に到達点にいるか	+	-	+	-	+
パターン	e	f	g	h	

表 2

e の状況

聞き手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいる
指示時に到達点にいる

聞き手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

e. 「話し手を到達点とした移動」

(24) “快**来**呀！”（“就来，就来。”）（輿水 1980）

(25) 【電話で】“你什么时候**来**？”（“马上就来。”）（陆俭明 2007）

(26) 陆大夫，请进**来**呀！（人到中年）

(27) 【電話で】我们知道你工作很忙，没敢告诉你，带她去看了急诊，打了针。

可是，现在还不退烧，老哼哼，要找妈妈，你能不能**来**看看。

（人到中年）

→ 話し手自身を到達点とする「聞き手の移動」を言語化するとき、

その移動は必ず“**来**”を用いて表される。

f の状況

聞き手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいる
指示時に到達点にいない

聞き手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

f.

(28) (話し手は現在会社にいるが、先週は出張でいなかった。)

你上周来我公司的時候沒發生什麼事兒吧？

(29) (話し手は現在研究室にいるが、明日は来ない予定だ。)

你明天来研究室嗎？

(30) (話し手は現在図書館にいるが、物を片付けて出ようとしている。)

你現在来图书馆找我。

→話し手は発話時に自分がいる場所を基準にして、聞き手の移動を“来”で表す。

g の状況

聞き手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

聞き手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

g.

(31)我在车站等着，三点你 {来 / 去} ，田中也要 {来 / 去} 。（中澤 2002）

(32)明天，我没事儿，两点左右到我研究室 {来 / 去} 吧。（中澤 2002）

(33)下午我在图书馆看书，你 {来 / 去} 图书馆找我吧。（张芑蕾 2009）

→“来”と“去”どちらを使用しても自然、両者は互換可能

? “来”を使用した場合と“去”を使用した場合では、

伝えようとする情報、聞き手に与えるイメージに違いがある

□(32)で“来”を使用した場合：

明天，我没事儿，两点左右到我研究室来吧。

…「話し手が“研究室”で聞き手を迎え入れる」イメージを受ける

□(32)で“去”を使用した場合：

明天，我没事儿，两点左右到我研究室去吧。

…「聞き手の移動を指示している」イメージを受ける

□(33)についても同じことがいえる

□(31)“我在车站等着”をぼかし、“去”を使用した場合：

(31)‘车站集合，三点你去，田中也要去。

…聞き手に「話し手は指示時の到達点にいない」イメージを与える

h の状況

聞き手が動作主体

話し手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいない

聞き手：発話時に到達点にいない
指示時に到達点にいる

h.

(34) 园园，你自己去买个烧饼吃吧！

(35) 陆阿姨，我害怕，我不做了，您出去跟我妈说！

(人到中年)

→ 発話時にも指示時にも到達点にいない 話し手は移動と関係がなく、
聞き手の移動を“来”で表すのが不可能であり、必ず“去”が使用される

5. 移動主体が第三者のとき

話し手…移動に関係しない（移動しない）

▶ 聞き手に第三者の移動を伝える

	聞き手		第三者
発話時に到達点にいるか	+	-	-
指示時に到達点にいるか	+	+	+
パターン	i	j	

表 3

i. (36)她马上就**来**医院了。(黄浦 2021)

j. (37)今晚的宴会你不必担心，她答应**来**陪你。(黄浦 2021)

→中澤は(38)で“来”は許容されないとしたが、黄浦が挙げた例(36)は(38)と同じiの状況 (= 第三者が聞き手に近づく移動) であるため、(38)でも“来”が許容されるはずである。

(38) 你给送电公司打个电话吧，会有人{***来** / **去**}的。(中澤 2008)

→(38)'你给送电公司打个电话吧，会有人{ **来** / **去**}的。

第三者が発話時／指示時に、聞き手の場所へ移動することに対して“来”を使用

↓ 「聞き手＝到達点」という認識

“来”の使用条件に關与している

- 移動主体が話し手の場合だけでなく、第三者である場合であっても、
「聞き手＝到達点」のとき**“来”が使用できる**

6. まとめ

- 移動主体及び発話時・指示時の話し手・聞き手の位置による場面設定から、会話場面における“来”と“去”の選択基準について、初歩的な分析と整理を行った。
- 中澤(2002)(2008)は聞き手を到達点とした“来”の制限性について説いたが、「聞き手＝到達点」が“来”の使用条件に十分なり得ることが明らかになった。また、“来”と“去”の選択において、主に“来”の使用が問題になると言えるだろう。
- 今回の場面設定をもとに、更なる“来”と“去”の選択に影響を与える原因（心理的働き・ホームベース・応答協調）を今後の課題として研究を進めていきたい。

移動主体：話し手	話し手	聞き手			
発話時に到達点にいるか	-	+	+	-	-
指示時に到達点にいるか	+	+	-	+	-
“来”と“去”の使用		来・去	去	来・去	去

表 4

移動主体：聞き手	話し手				聞き手
発話時に到達点にいるか	+	+	-	-	-
指示時に到達点にいるか	+	-	+	-	+
“来”と“去”の使用	来	来	来・去	去	

表 5

参考文献

- 高艳. 2007. 〈趋向补语“来”“去”使用不对称的语用考察〉《晋中学院学报》24卷第2期: 36-38.
- 黄浦. 2021. 〈趋向动词“来”和“去”参照点问题分析〉《时代报告》3: 68-69.
- 姜南秀. 2010. 〈现代汉语趋向动词“来”“去”的语义分析〉《兰州教育学院学报》第26卷第1期: 64-67.
- 陆俭明. 2007. 〈从量词“位”的用法变异谈起〉《语言科学》第6卷第6期: 33-35.
- 彭広陆. 2008. 〈从翻译看日漢移動動詞「来る／行く」和“来／去”的差異—以译者观察事物的角度〉
《日语学习与研究》2008年第4期: 7-14.
- 張芑蕾. 2009. 「視点移行と移動動詞の選択に関する日中対照研究」『現代中国語研究』第11期（2009.10）: 12-21.
- 加藤晴子. 2006. 「中日対訳コーパスにみる”来””去”と「くる」「いく」の対応状況」
『応用言語学研究』No. 8（2006.3）: 87-104.
- 輿水優. 1980. 『中国語基本ノート』大修館書店.
- 澤田淳. 2018. 「日本語の直示移動動詞の選択原理について—「行く／来る」の選択はどのようにして決まるのか?—」
（松山大学）第38巻第1-2号: 237-290.
- 下地早智子. 1997. 「移動動詞に関わる「視点」の日中対照研究」『中国語学』244: 132-140.
- 中澤恒子. 2002. 「「来る」と「行く」の到着するところ」『シリーズ言語科学4 対象言語学』東京大学出版会.
- 中澤恒子. 2008. 「“come”が「来る」ではないとき」『こころと言葉 進化と認知科学のアプローチ』東京大学出版会.
- 松本曜. 2017. 『シリーズ言語対象〈外から見る日本語〉第7巻 移動表現の類型論』くろしお出版.
- 丸尾誠. 2005. 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社.